

# 「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」便り

連休の三、四、五日と大阪行動は中之島まつりに参加しました。いつも大阪駅前前の地べたに張られているバナーを風になびかせ、美しい大浦湾の写真パネルも展示してブースを構えました。沖縄物産の販売。三線を弾く人歌う人、それを聴きながらジュゴンの折り紙をおる。署名板を並べた机の



前では今の辺野古のことが語られ、聞き入る人たち。三日間で二八二筆の署名が集まりました。そして、ジュゴンすくい。色とりどりの小さいジュゴンが海を思わせるブルーの布地を敷いたおけの中ですくってもらうのを待っている。「辺野古のジュゴンを救ってくださあい」「サンゴの海のジュゴンをすくってえ〜ね〜」とOさんの呼び込みのもと子どもたちが楽しそうにジュゴンをす

## 辺野古ゲート前6日間

### 500人連続行動

4月23日から29日まで「奇跡の一週間」と呼ばれるようになった行動が辺野古現地でありました。「6日間、500人を切った日はなかった。多くの人々が機動隊の暴力的な排除をもろともせず集まり、5人が逮捕されたけど、みんな1日で出てきた」「ゲートをくぐって行ったダンプの数は600台減。2日間工事を止めたことになる」と報告されています。「諦めない!」深く、重い合言葉がひるむことなく実践されています。

くついで。五月の明るい陽ざしのなかをたくさんの人々が市役所から公会堂へ、さらにその先に続く道を行きかっ



ていました。五日の大阪行動には豊中市議の木村真さんが「先週、辺野古現地の連続行動に行ってきました。目の前をダンプがゲートを通り抜けて行く。それが空になって出てくるのを見るといたたまれなくなる。辺野古に行ける人は行ったほうがいい。だけど、大阪の人間として大阪で何ができるのかを考え、自分たちの地元で辺野古の工事を止める活動をしていくことが大切やと思ういで来ました」と初参加です。

編集委員 N